

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名:消費動向調査(2012年10月)

発表日2012年11月12日(月)

～消費者マインドは2ヶ月連続の低下～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL : 03-5221-4526

消費者態度指数 (全国・一般世帯)			消費者意識指標							
		前月差	暮らし向き		収入の増え方		雇用環境		耐久消費財の買い時判断	
月	指数		指数	前月差	指数	前月差	指数	前月差	指数	前月差
11年7月	36.8	1.3	38.7	1.2	38.0	0.4	31.2	1.5	39.3	2.0
8月	37.0	0.2	38.8	0.1	38.5	0.5	31.6	0.4	39.0	▲0.3
9月	38.1	1.1	39.6	0.8	39.4	0.9	33.5	1.9	40.0	1.0
10月	38.3	0.2	39.7	0.1	39.0	▲0.4	34.2	0.7	40.3	0.3
11月	38.3	0.0	39.2	▲0.5	38.7	▲0.3	34.9	0.7	40.3	0.0
12月	38.8	0.5	39.6	0.4	38.4	▲0.3	36.0	1.1	41.1	0.8
12年1月	39.9	1.1	40.8	1.2	39.5	1.1	37.3	1.3	41.9	0.8
2月	39.9	0.0	40.7	▲0.1	39.0	▲0.5	37.9	0.6	42.0	0.1
3月	40.3	0.4	41.1	0.4	39.4	0.4	38.6	0.7	42.1	0.1
4月	40.0	▲0.3	40.3	▲0.8	39.6	0.2	38.2	▲0.4	41.7	▲0.4
5月	40.7	0.7	41.3	1.0	40.1	0.5	39.3	1.1	42.2	0.5
6月	40.4	▲0.3	41.3	0.0	39.7	▲0.4	38.0	▲1.3	42.5	0.3
7月	39.7	▲0.7	40.6	▲0.7	39.4	▲0.3	36.8	▲1.2	42.0	▲0.5
8月	40.5	0.8	40.7	0.1	39.6	0.2	38.7	1.9	42.8	0.8
9月	40.1	▲0.4	40.6	▲0.1	39.7	0.1	37.7	▲1.0	42.2	▲0.6
10月	39.7	▲0.4	40.1	▲0.5	39.5	▲0.2	37.2	▲0.5	41.8	▲0.4

(出所)内閣府「消費動向調査」

(注) 季節調整値

○消費者態度指数は2ヶ月連続の低下

10月の消費動向調査によれば、消費者マインドを示す消費者態度指数(一般世帯、季節調整値)は前月差▲0.4ptと2ヶ月連続の低下となった。

個別に見ても、指数を構成する4項目すべてが悪化しており、消費者マインドの弱さを示す内容であった。中でも、「暮らし向き」(前月差▲0.5pt)、「雇用環境」(前月差▲0.5pt)の下落幅が大きい。「雇用環境」については、生産低迷を背景とした求人減少などが、マインドの下押し圧力になったものとみられる。また、エコカー補助金制度の終了を背景に、「耐久消費財の買い時判断」も前月差▲0.4ptと2ヶ月連続で低下している。

○年内の個人消費は低調な推移が続く見込み

このように、10月の消費者態度指数は2ヶ月連続の低下となり、マインドの弱さが示唆される結果となった。こうした中、先行きの個人消費に力強い回復は見込み難い状況だ。マインドの回復が停滞していることに加え、雇用・所得環境が弱含んでいることがその背景にある。加えて、エコカー補助金制度終了の影響が

ら、当面は自動車販売の低迷が予想されることも、個人消費の回復を抑制する一因だ。

このうち、雇用・所得については、生産活動の持ち直しが見込まれる年明けまでは弱含む可能性が高い。また、今冬のボーナス減少が見込まれることも、所得環境にはマイナス要因となる。自動車販売についても、生産計画などを勘案すると回復は年明け以降になることが予想される。こうした中、年内の個人消費は低調な推移が続く可能性が高いとみている。

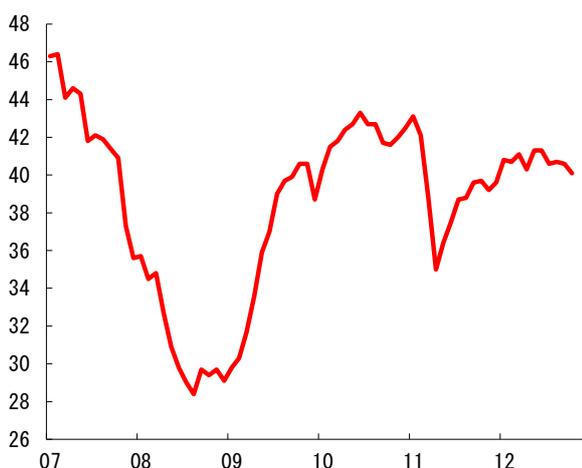
消費者態度指数の推移(季調値)



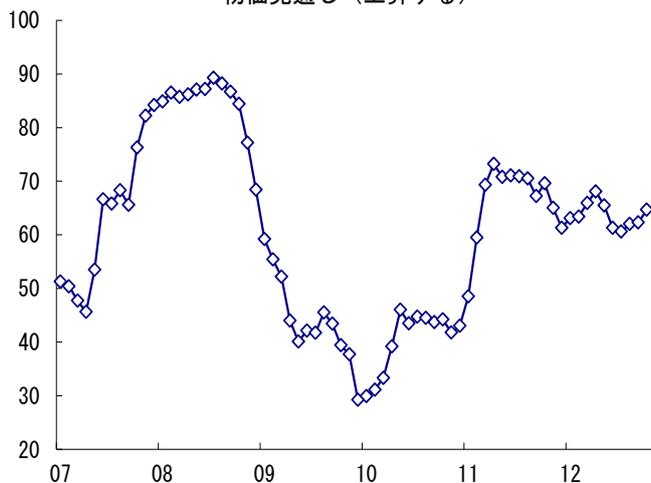
消費者意識指標の推移
(雇用環境、季調値)



消費者意識指標の推移 (暮らし向き、季調値)



(%) 物価見通し (上昇する)



○出所はすべて、内閣府「消費動向調査」